授業科目名 <英訳>	地球環境法・政 Global Environn		w and P	olicy	担当		也球環境学堂 也球環境学堂		松下 小畑	和夫 史子
配当学年	修士	単位数	2 開	講期	前期	曜時限	水2	授業	形態	講義
科目番号	3101	使用]言語	En	glish					
[授業の概	要・目的]									,
検討する。 際機関,産 に分析する		境に関す	する法的 環境政策	り・制 策形成	度的枠約 成に関す	狙につい る様々な	いて研究する ま主体の多元	とともに)的な活動	-, 各国 力を政治	国政府,国 治経済学的
	ve of this course i									
	that end, examine various actors inc									
[授業計画]	と内容]									
	ion and Explanati	on of Cou	urse Out	line						
2. Stockholn										
3. Rio to Jol	0									
8	nental Accords ne Layer Protectio	n and Cli	imata C	hongo	Dogimo	2				
8	Systems, Develop			-	•					
8	iety and Governa					minem				
8. Paths to t			Jui Oow	Jimite	/11t					
12 C	f the Japanese En	vironmer	ntal Law							
	te Social Respons			•						
a -	ing Regulation in	•								
	c Environmental		Pollutic	n Cor	ntrol Law	. Enviro	nmental Impa	ct Assess	sment I	law. etc.
						,	r			
[履修要件]										
特になし										
[成績評価	の方法・基準]									
出席状況	(授業時の発表)	と期末	レポー	トによ	い評価					
Evaluate ma	ainly by the prese	ntations i	n the cla	ass as	well as e	nd-of-te	rm report, tak	ing active	e and c	onstructive
participation	n in the class into	account.						C		
[教科書]										
	and Haas, P.M.	[Clobal]	Environ	monto	al Cover		(Jolond Drogs) ICDNI	1 5070	06 001 0
	and Haas, P.M. 『環境政策学ので								1-39/2	20-081-9
環境省『琐	環境省ホームペー	-ジ」(/					
必要なプリ	レント等を配布す	る。								
Necessary n	naterials will be c	opied and	d ditribu	ited.						

地球環境法・政策論(2)へ続く↓↓↓

受某种日石 <英訳>	地球環境経済詞 Global Environr	-	mics	担当	and the star of the	也球環境学生 也球環境学生		森劉	晶寿 徳強
配当学年	修士	単位数 2	開講期	前期	曜時限	月2	授業	形態	講義
科目番号	3102	使用言語	清片	英語/ Engl	ish				
[授業の概]	要・目的]	<u> </u>							
めに必要と るでの で で で で で で で で し 、 の の で し 、 の の で し 、 の の で し 、 の の の に で し の の の に こ で の の の に で し の の の に こ に の の の に の し の の に こ に の の の に の し の で し の の に の こ に の の の に の し の で し の の の に の こ に の の の に の し の で 、 た の で し の で 、 た の で 、 た の こ に の で 、 た の し の で 、 た の し の で 、 た の し の に の た の し い た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た 、 、 む こ れ む お い た が む た 、 、 の た の た の た の た の た の た の た の た の た の 、 の で 、 の で っ の い ち の い い 、 の っ こ っ い 、 、 の っ て し っ い ち の い ち の 、 の の い 、 の っ の い 、 の の い 、 の の い 、 、 の っ い 、 、 の っ い 、 、 の っ つ し い い 、 、 の っ い 、 、 の っ い 、 、 の っ い 、 、 の っ い 、 、 の っ い 、 、 の っ の っ 、 の っ の っ 、 の っ の っ の っ の っ の っ の っ 、 の つ っ の っ の っ の っ の っ の っ の つ っ の っ の っ の の	e environment an l discuss policies tal assets, integra	社会,制度, い中国など and analytica ivironmental tions and poli alities of the a pan and Chin 定, 環境及び公室 率明するとと 並を行う. さ たる社同利用 える. theory and poli pecial focus tween human nability into a chanisms of g and institutio	政の	あり方に work on ion and de nsure env eories, pol 環から成いジ ustainable ure, takin nd local er cies and in can manag	関する環 gradation ironmenta icies and 点構地と解こ る築述れし、 を築述れし、 g environ wironmen nstitution g e local a	環境経済・ 環に関する al, social and institutions 動地かって り に 取的 に 取的 で か こ の た の た の の し な の の た の の の し の の の し の の の の の の の の の の の の の	数策学の理 知見を得る d economic through eco 必模かのす な諸るか, が あのすーと方に w of enviro traint, mat as and polic current environ	Email Constraints and a substance of the substance of t	分析方法を ainability nces of 可能性 り環境経済が で で う で う で る に た い り に の 行 る 経済 が で る に た い り で の 能 性 の で る 経済 が で る に を ら で の に き の で の に き の で の に き の で の に き の で の に や る に を う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の に う の の の に う の の の の
[授業計画									
	境の経済的理解 ion:Economics a		nmont						
	ion:Economics a 境問題に対する			チ(1)強	持続性*				
Economi	c Approaches to	the Environm	ent (1):	Strong Su	stainabili				
	境問題に対する								
	c Approaches to 境問題に対する						¢		
Economi	c Approaches to 境外部性と価値	the Environm						8	
Environn	nental Externaliti	es and Valua							
第6回:環	児以来の日門・	日悰・于段	۴						

地球環境経済論(3)

Pearson Education Limited,1994)(大沼あゆみ訳『環境経済学入門』,東洋経済新報社,2001年) Van der Bergh, Jeroen C.J.M (ed.) 『Handbook of Environmental and Resource Economics, Edward Elgar』 (1999) 森 晶寿編 『東アジアの環境政策』(昭和堂,近刊)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

リーディングリスト(文頭にアスタリスクがある文献は必読文献)/ Reading List 森, 『環境援助論:持続可能な発展目標実現の論理・戦略・評価』,有斐閣,2009年 あとは,教科書の末尾に掲載してあるリーディングリスト参照. The other references are listed in the textbook, and will be shown at the class and KULASYS.

随時. 事前にe-mailでアポを取ること. メールアドレスは, liu@econ.kyoto-u.ac.jp mori.akihisa.2a@kyoto-u.ac.jp

地球資源・生態系管理論(2)

第15回 水産資源の管理 / Management of fisheries resources***

担当者:*舟川、**柴田、***山下 Given by Prof. Funakawa*, Prof. Shibata** and Prof. Yamashita***, respectively.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

授業中の小試験(50%)および期末試験(50%)を総合して評価する。

Evaluated by the sum of scores of mid-term quizzes and reports (50%) and end-of-term examination (50%).

[教科書]

特に指定せず、必要に応じて資料を配付する。 Not specified.

[参考書等]

(参考書)

Manuel C. Molles, Jr. 『Ecology: Cocepts and Application』 (WCB McGraw-Hill) ISBN:0073309761 Richard T. Wright 『Environmental Science: Toward a sustainable future』 (Pearson Education International) ISBN:0131442007

W. Dubbin 『Soils』 (The Natural History Museum, London) ISBN:0565091506 Michel Kaiser 『Marine Ecology: Processes, Systems, and Impacts』 (Oxford University Press) ISBN: 9780199249756

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

環境倫理・環境教育論(2)

Class 11: Community-based NGO advocacy campaigns (Guest lecturer: Sarajean Rossitto)

Class 12: Case study: community-based education (Guest lecturer: Masayoshi Ogawa)

Class 13: Group preparation for educational program presentations

Class 14: Group presentations

Class 15: Group presentations and conclusion

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

レポート提出、及びグループ発表で評価する。

Readings, short assignments, a group report and group presentation.

[教科書]

プリント配布

Class handouts

[参考書等]

(参考書)

適宜推薦する

A list of recommended readings will be distributed in class

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー:事前にメールでアポイントを取ってください。

Office Hours: by appointment

人間環境設計論(2)

_____ [履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

授業出席とレポート

Class attendance and a report submission

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書) 配布プリント Class handouts

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

授業科目名 《英訳>	地域環境管理学 Regional Plannir	é 1g and La	and N	/Ianag	ement	担当	者氏名	地球環境学堂 地球環境学堂	教授 准教授	小林 西前	愼太郎 出
配当学年	修士	単位数	1	開講	期後期	朝前半	曜時削	2 金2	授賞	能形態	講義
科目番号	3215	使用]言言	E H	日本	語/英	語				

[授業の概要・目的]

地域の持続可能な発展の前提となる適切な地域資源利用・地域環境管理のあり方・方法等につい て土地利用計画を中心に学ぶ。地域計画に関する理念、体系、制度などの地域計画基礎論を講述す る。また、土地を中心とする資源管理、すなわち土地利用の計画及び管理について土地分級や土地 利用計画、地域開発計画、環境アセスメントに関する手法や手順について具体的事例を交えて講述 する。最後に、世界各地の発展途上にある地域の調査研究事例に基づき、真に持続的な地域発展を もたらすにはどのように地域資源利用・地域環境管理を行えばよいかについて講述する。

This course is designed to review sustainable rural development alternatives and strategies while introducing students to appropriate usage and management of resources and environments at local level focusing on land-use planning. Key concepts, systems and institutions in regional planning are discussed. Planning and management of resources are reviewed while introducing students to the methods and procedures of land classification, land-use planning, regional development planning and environmental impact assessment. Part of the course will explicitly deal with integrated rural development in developing countries with appropriate comprehensive environmental management at local level.

[授業計画と内容]

第1回

ヨーロッパにおける農山村振興のとり組み事例を紹介し、地域計画の意義・役割を確認する。また、 日本およびヨーロッパ諸国の地域計画体系について比較論的に説明し、地域計画の枠組みの中で土 地利用を中心とする地域環境管理をどのように捉えていくかについて講述する。

1st week

Objectives and roles of regional planning are outlined through introducing rural developments projects in Western Europe. The systems of regional planning in Japan and some European countries are compared to explain the concepts of comprehensive environment management forcusing on land use in the context of regional planning.

第2回

地域環境を規定する土地・水を中心とする地域資源の利用・管理の考え方やとり組みについて講述 する。とくに、土地利用については、Schumacher及びLeopoldの文献からその基本を学ぶ。

2nd week

Methods and basic concepts of usage and management of land and water will be described. Especially we learn the basic concepts on land use from articles by Schumacher and Leopold

第3回~第5回

主として開発途上国を対象とした土地利用計画の理念、手法、手順についてFAO出版による教材を 用いて講述する。教材は、reading assignmentとし、その内容について討議・検討をおこなう。

3rd trough 5th weeks

Key concepts, methods and procedures in land-use planning in developing countries are reviewed and

「地域環境管理学(2)へ続く↓↓↓

地域環境管理学(3)

(1)* E. F. Schumacher: The Proper Land Use in 'Small Is Beautiful', pp.108-124, Harper Perennial, 1975
(2)* Aldo Leopold: The Land Ethic in 'A Sand County ALMANAC', pp.201-226, Oxford University Press, 1968

(3)* FAO: Guidelines for Land-use Planning, pp.1-73, FAO, 1993

(4) FAO: A Framework for Land Evaluation, pp.1-65, FAO, 1976

(5) FAO: Environmental Impact Assessment of Irrigation and Drainage Projects, pp.1-66, FAO, 1995

(6)* Richard A. Carpenter, James E. Maragos: How to Assess Environmental Impacts on Tropical Islands and Coastal Areas, Environment and Policy Institute, East-West Center, 1989

(7) 農林省農林水産技術会議:土地利用区分の手順と方法, pp.81-208, 農林統計協会, 1964 (Process and method of land-use classification)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーの曜日・時間・研究室 e-mailで予約のこと(shin@kais.kyoto-u.ac.jp) 総合研究棟5号館208室

Office hour

Consultations by appointment only. e-mail: shin@kais.kyoto-u.ac.jp Research Building #5, Room 208

景観生態保全論(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書) 授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

環境アセスメント理論と実際(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

授業中のディスカッションへの参加状況とレポートにより総合的に評価する。

Evaluated by the participation into the class discussion and the final report.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

陸域生態系管理論(2)

reference to management of water and organic-matter resources in the agro-ecosystems.

第7回:中央ユーラシア山間・山麓地の生態環境と土地利用 / Ecological conditions and land utilization in mountain foothills of Central Eurasia.

比較的水資源に恵まれたテンシャンおよびアルタイ山脈山間・山麓地における生態環境について概 説し、特に牧畜の展開と関連させて歴史的事象を考察する。

The ecological conditions in mountain foothills of Tienshan and Altai mountains in Central Eurasia are discussed with special reference to livestock production and historical movement of nomad people.

第8回:総合討論 / General discussion

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

出席数とレポートにより成績を評価する(優:80点以上、良:70-79点、可:60-69点、不可:59点 以下)、配点はレポート(60点)、出席点(5点/回)

Grade is evaluated by the attendance to lectures and the marks of reports (Excellent: >80, Good: 70-79, Pass: 60-69, Failed: <59).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書) 授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

国際環境防災マネジメント論(2)

Lecture 5: Urban Risk Reduction: Regional and Local perspectives Lecture 6: Climate Change Adaptation: Examples of Vietnam and India

Lecture 7.8: Participatrov planning and management and problem solving exercises

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

出席、授業中のディスカッションへの参加状況、レポートにより総合的に評価する。

Attendance, proactive participation in discussion, and report are the requirements to obtain credit.

[教科書]

R. Shaw and R. Krishnamurthy, 2009 ^[Disaster Management: Global Challenges and Local Solutions] R. Shaw, H. Srinivas, A. Sharma, 2009 ^[Urban Risk Reduction: An Asian Perspective] Rajib Shaw, Juan Pulhin, Joy Pereira, 2010 ^[Cliamte Change Adaptation and Disaster Risk Reduction: An Asian Perspective]

Rajib Shaw and Anshu Sharma Climate and Disaster Resilience Initiaitve

[参考書等]

(参考書) 授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

本講義は、「リスクコミュニケーションと防災教育」と連動しています。詳しい情報については、 第1回目の講義にて解説を行います。

This course is linked to the course: "Risk Communication and Environment Disaster Education." Further information will be provided in the orientation in Lecture 1.

	流域水環境管理 Watershed Water		nent]	Manag	ement	担当	皆氏名	地球環境学堂 教授 地球環境学堂 准教			藤井 田中	滋穂 周平
配当学年	修士	単位数	1	開講	明 前期	用後半	曜時阴	夏火1		授業	形態	講義
科目番号	3251	使用	了言言	툡	Englis	sh, 英	話					
「授業の概	要・目的											

Comprehensive management of whole watersheds is essential for solution of several water pollution problems to establish sound and comfortable environment. This lecture gives basics and applications on causes and effects of many pollution issues and its management knowledge such as engineering techniques, judicial systems and administrative strategies. The purposes of the lecture course are to study mechanisms of water pollution, and to consider its management.

All of the lectures are given in English, but some translation assistances are given in Japanese. 水環境の各種の汚濁問題を解決し、快適健全な環境を創造するためには、個別の対応ではなく、 流域を最低限の単位として総合的に管理をする必要がある。本講では、水環境で生じる各種環境問 題の原因と影響を示し、その管理のために必要な技術、法律、施策について、基礎と応用を講述す る。以上を通じて水環境における汚濁の機構とその対策を学び、その管理のあり方を考える。 なお、本講義は英語で進めるが、日本語での補完的説明も随時加える。

[授業計画と内容]

1. Overview概説 (6/5)

Main water pollution issues (heavy metals, organic matter, eutrophication, persistent organic pollutants, microbial contamination) are explained from the viewpoint of sources, pollution mechanisms, and countermeasures. 水環境の主要汚染問題(重金属汚染、有機汚濁、富栄養化、残留性有機汚染物、微生物)の原因と 汚濁機構、対策、水環境問題のとらえ方の基礎を講述する。 2. Fundamental knowledge on water environment 水環境基礎 (6/12) Fundamental knowledge required for understanding water pollution mechanisms and countermeasures are explained. 水環境での現象や対策を理解するために必要な水質指標(BOD、COD、SS、DO他)・生態系その 他の基礎的な用語と内容について説明する。 3. Watershed management & regulations system 流域管理と関連法体系 (6/19) Many regulations related to water environments are explained to let students understand the concept for watershed management. 水環境に関わる基礎法と関連各種法律について説明し、それに基づく流域管理の概念を提供する。 4. Water management in water-flowing areas 流水域水管理 (6/26) Pollution problems occurring in flowing water environment are lectured in terms of pollutant materials, sources, distribution mechanisms, influences and countermeasures. 河川など流水水環境における汚濁問題について、その原因物質・発生源・汚濁機構・影響・対策を 講述する。 5. Water management in closed water areas 閉鎖水域水管理 (7/3) Pollution problems occurring in closed water environment are lectured in terms of pollutant materials, sources, distribution mechanisms, influences and countermeasures. 流域水環境管理論(2)へ続く↓↓↓

流域水環境管理論(3)

健康リスク管理論(2)

住友恒 、村上仁士、伊藤禎彦、上月康則、西村文武 『環境工学』(理工図書)ISBN:978-4844607175

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

	環境コミュニケ				担当:	者氏名	地球環境	竟学堂 准	教授	Tracey GANNON
<英訳> 配当学年	Environmental C 修士	ommunicatio	n Studie 開講期	les	1					(形態) 講義
	i≥⊥ 3259	<u> + 世级 1</u> 使用言語	<u>Jania</u>	<u>英語</u> /				nducted in		
科日留亏 授業の概要				イョロハ		SSES WI	II De COL	Iducieu ii	l Elign	1SN
All environr and action b speaking for oublic relation of the environally students	mental communic by raising awarene r nature and the en- ions, and the inter- onment, and 2) ho s are required to su ill also be assessed	ess of environ environment th rnet, in order to ow it can influ submit three sh	nmental i hrough a to unders uence ou hort writ	issues. art, pho rstand I ur action tten ass	s. In the otogr 1) he ons, i	his clas raphy, l ow com in relati ments c	ss, we an literature imunicat ion to the over the o	alyse a s e, the pres- tion can in e natural duration	electio ss, film nfluend world. of the o	n of "voices" a, advertising, ce our perception eight-week cours
授業計画		Representation and the second seco				Aut (j.				
	troduction: what is	s environmen	ital com	munic	atior	<u>1?</u>	<u>ja luittoja e</u>		11394438	an a
Week 2: In	nature's name (1)): animal voice	es							
Week 3: In	nature's name (2)): women's vo	ices							
Week 4: In	nature's name (3)): indigenous v	voices							
Week 5: Ta	alking pictures: vo	pice of the Gre	een Scre	en						
Week 6: Vc	oice of the press: f	framing envir	onment	al issu	ies in	the ne	WS			
Week 7: Cc	orporate voices: gi	reening busin	less or g	;reenw	/ashir	ng the p	olanet?			
Week 8: Vo	oice of protest: ha	rnessing the r	power of	f "ne	w m	edia"	in enviro	onmental	comm	nunication
履修要件					다. 한 것같					
特になし					<u> </u>	<u> </u>				
[成績評価	の方法・基準]		en e						n i Alder Alta des	
	s are required to s ill also be assessed and debate.				-					-
	e not expected to ted one week prior									
	,12,55.	14 KAATA FATA 22223 BA223	1011201 (101208 EEC	13 133 1 33			- 環境	第コミュニ	ケーショ	ョン論(2)へ続く↓

授業科目名 <英訳>	人間環境共生論 Studies of Human a		ıtal Symbi	osis 担当		地球環境学堂 地球環境学堂				-郎
配当学年	修士	単位数 1	開講期	前期前半	曜時限	人2	授業	形態	講義	
科目番号	3263	使用言語	E E	本語	8	an gan an a				
[授業の概									······	
(後半)災 性は高いと	環境と人間生活の きをテーマとす は言えないが、 「可欠である理由	「る文学作品 それにもか	をとりま	5げ論じ	ていく。	出来事の記	録として	文学们	F品の	信頼
[授業計画	と内容]									
は西文(第『第森第石第日古崩半回丈回和回礼。 日古崩半回丈回和回礼回、記. 江. 道. でである。 はたいです。 はたいです。 には、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に に に に	、吉村昭『関東 抗労働と文学 上野英信、山本 きと文学 ・『苦海浄土』な	はじめとする なの助けとす つる。 更大震災』、 本作兵衛、ゾ など。	記録類, るため, ラフェリ ラ『ジョ	江戸時(ジャレ リエール エルミナ・	代の思想 ド・ダイ 『ハイラ ール』 ⁱ	想書(熊沢蕃 イアモンドの チ震災日記』 など。	山など) ・『銃・症	,仏典	电, 聖	書,
[履修要件]										
特になし										
	の方法・基準] 、びレポート試験	険による。	lan fatta an gala da ang a pilo ang sa			nan ontana manana manana ana ana ana ana ana an				
[教科書] 使用しない										
[参考書等										-
) ダイアモンド -ド・キャリコッ							5-4		
	(授業外学習の指									
オフィスア	7ワー(小方):	月曜 13:00~	~15:00	(研究室	:人環核	東431)				
※オフィス	、アワー実施の有	育無は、KUL	ASISで	確認して	くださ	い。				

環境マーケティング論(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書) 授業中に紹介する

(関連URL)

http://www.eeso.ges.kyoto-u.ac.jp/emm/?page_id=476(講義ノート)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

環境学的アジア経済史論(2)

[参考書等]

(参考書)

籠谷直人、脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク』(世界思想社、2009年)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

なしNone

授業科目名 <英訳>	里海学 Management of Satoumi • the symbiotic i	elationship betweenh	uman activi	ties and the co	astal ecosy	ystem 担当者	皆氏名 7	ィールド科学教育研究センター 孝	牧授 山下	洋
配当学年	修士	単位数	1	開請	期	後期前半	曜時限	!木2	授業形態	講義
科目番号	3273	使用]首背	6	日ネ	本語/英	語, Jap	anese/English		

[授業の概要・目的]

里海とは、人間活動と自然生態系とが持続的に共生する沿岸域のことである。とくに沿岸海域の水 産資源生物の生産に対する環境の影響に注目し、沿岸海域の環境保全と豊かな海づくりを出口とした、流域全体の管理と人間活動のあり方を学ぶ。沿岸資源生物の生産構造を基礎に、資源量の変動 機構と環境との関係を論議し、変動する生物資源の管理方策について解説する。また、沿岸海域の 生物生産、生物多様性に与える陸域生態系の影響について論述する。とくに、海洋域、河口域の物 理・化学的な環境構造と時空間的な変動のメカニズム、これら非生物的環境変動に対する生態系の 応答、さらに、人間活動が河口・沿岸域の生態系、生物生産、海洋生物の生態などに与える影響に ついて論究し、豊かな水産資源の生産を保全・再生するための方策を検討する。

This course is designed to review the symbiotic relationship between human activities and coastal biological production systems, referred to as "Satoumi". Students will examine basic mechanisms of fisheries resource production in coastal ecosystems and integrated coastal zone management, including watershed areas, in order to identify and evaluate sustainable conservation and restoration measures. The mechanisms of fisheries resource fluctuation will be reviewed based on the biological production structure in coastal marine ecosystems. Effects of human activities in watershed and coastal areas on coastal ecosystem biodiversity and fisheries resource production will be examined. Particularly, we will focus on the temporal and spatial changes of terrestrial inputs to coastal waters and the responses of coastal ecosystems to these loads. We will discuss countermeasures to maintain and regenerate rich and sustainable coastal environments.

[授業計画と内容]

第1回・第2回

世界の漁業、我が国の漁業の動向と現状を概説する。次に、海洋における生物資源の生産構造を支 える基礎生産から魚類に至るエネルギー連鎖と食物網について、新生産と再生生産、生食食物連鎖 と腐食食物連鎖などの異なった生産生態系の存在とその複合的な構造を理解する。

1st and 2nd week

Current trends in world and domestic fisheries: Statistics published from FAO and MAFF Japan will be outlined. Biological production mechanisms of marine fisheries resources will be explained based on the energy flow from primary production to top-level fish predators. The complex relationships among new production and regenerative production systems (grazing and microbial food chains) will be discussed via lecture.

第3回

資源水準の変動機構:魚類を中心に、水産資源生物の量が変動する機構について、世界的な研究動 向とこれまでの仮説や研究の過程を検証する。とくに、魚類の再生産特性、初期生活史、初期生態、 生残機構、生活史戦略、環境変動応答などを中心に、資源生物の生産メカニズムとの関連も含めて 論述する。

3rd week

Mechanisms of fishery resource fluctuation: Hypotheses on the determination mechanisms of fish year-class

里海学(2)へ続く↓↓↓

里海学(3)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(**参考書**) 授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

自然資源ガバナンス論I(2)

[教科書]

講義時に資料を配布する。

Handouts will be distributed in class.

[参考書等]

(参考書)

Meinzen-Dick, R., Knox, A., Place, F. and Swallow, B. 『Innovation in Natural Resource Management: The role of property rights and collective action in developing countries』 (John Hopkins University Press) Molden, D. (ed.) 『Water for Food, Water for Life: A Comprehensive Assessment of Water Management in Agriculture』 (Earthscan)

Persoon, G. A., van Est, D.M.E. and Sajisa, P.E. Co-Management of Natural Resources in Asia: A Comparative Perspective (NIAS Press)

Wittayapak, C. and Vandergeest, P. (eds.) ^[7]The Politics of Decentralization: Natural Resource Management in Asia] (Mekong Press)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けない。直接研究室を訪れるか、e-mailでアポイントメントを取ること。

Available for consultation any weekday, visit to the office or upon appointment.

発展途上国における強制移住(2)

[成績評価の方法・基準]

Students will be evaluated on the basis of attendance, active participation in class, a group presentation and short assignments.

.

[教科書]

No textbook is required; handouts will be distributed in class.

[参考書等]

(参考書)

A list of suggested references will be distributed in class.

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー:事前にメールでアポイントをとってください。 Office hours by arrangement.

	Atmospheric Ch	1		882#			neen l		L.	LANG TTZ GOL	计计
配当学年	修士	単位数					曜時阳		29	業形態	
	3281	使用	目言語	5	日本	s語 J	apanese				
[授業の概]							· · · ·				· · ·
	ている大気環境										- 1: - t: F
	tal issues of the lenvironment wi		~		псп	we are	racing v	will be overv	newed. I	ruture pr	ediction of
•							2			NII. 55./	·····
	気問題を議論す 更に、大気中で										
	シに、八気中で										はイノノ
a											
	the atmosphere, in order to under										
	nd oxidant increa					mospin		nonment. C	Zone tay	er destru	citoli, giobai
授業計画	と内容1									1. 1. ju	
		物質循環					· .				2011 1970 1970 1970 1970
	re of earth atmos			ortatio	on of	the ari					
	応理論										
Introduct 3 成層圏	tion of chemical 〕 化学	kinetics									
Chemistr	y in the stratosph	ere									
4 大気酸	•••	1									
5 地球温	tion of the atmos l暖化	phere									
Global w	arming process										
	·ダント問題 mical oxidant iss	210									
	^ジ アの大気問題	ue									
	ge transport of po	ollutant ir	n Eas	ter As	sia						
	沈料と大気 ty governed by n	ew energ									
	ly governed by h		105								
[履修要件]											
特になし											
『成續評価	の方法・基準]										
	席と課題レポー	トの内	 容	redate)		<u>Delefiltetete</u>		ERREAL SAME	an telebolar telebolar Telebolar telebolar	en an	
	lance and reports										
							50110 gyrs 40		151701 127703 INC.47		
			----					大気環	境化学論	俞(2)へ統	売<↓↓↓
		a mai ann an tha an tha tha an tha chuir a tha chuir a sha chui		energia de la compositiva de la composi						ana an	

1000 ALC ALC AND			ynamics			環境学堂 准教授	
配当学年	修士	単位数 1	開講期	前期後半	曜時限 月1	授業	能形態 講義
科目番号	3282	使用言	語	英語 (補助	的に日本語)	English (some	Japanese)
[授業の概	要・目的]						
	産と動態を考察	するのに必	、要な生	態学と植物	物生理学の基	礎および各種生	主態系研究の実
を学ぶ。							
	ll learn basics of o					iscussion of ecos	ystem production
and dynami	cs, and examples	of research is	n variou	s ecosyster	n studies.		
F.S. Chanin	et al. (2002) Prin	ciples of Ter	restrial	Fcosystem	Feologytz	を参考資料とし	て田い 生能3
の生産と重	動態に関連する研	「究分野を想	R 観 する	。 特に、	主能系の定義	していた。 構造、その特	勿質牛産、炭素
	態、物質生産器						
	三態系(熱帯多雨材						
)現状を学ぶ。						
	ll be introduced to						
	Ecosystem Ecolog definition of ecos						
	structure of leaves						
	etc. We also ove						
	rest, temperate for	-		•		· -	· •
conducted t				· ·	ľ	,	e
[授業計画	レカ家コ	ada bahar da sa	ny a contratta e una facto de contratta de contratta de contra	ener der ein Standen verstennen ihn anste Standenster	ni) uungu milanii pupun (10 pupun pubung) (10 pupun pupu kumiku (bugu) ili ya kupatan mesta	n fallen gemeine beste generale andere andere falle generale at ensuendere en die set for en en en beste falle	
	上内谷」 態系の物質生産	レ出表動能					-
	感来の初貢上座 n and carbon dyn		systems				
	態系の長期間変						
	dynamics of ecos			n methods			
	の特性と光合成	生産					
弗3回:栗							
Leaf trait a	nd photosynthesis	N 41 - 1.					
Leaf trait an 第4回:木	部の機能と光合						
Leaf trait ar 第4回:木 Xylem func	部の機能と光合 ction and photosyn	nthesis	什般不				
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および	nthesis 熱帯季節林		osustans			
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi	nthesis 熱帯季節林		cosystems			
Leaf trait an 第4回:木 Xylem fund 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系	nthesis 熱帯季節林		cosystems			
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal	forest ec		学)		
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究	forest ec の実際(調査地見	/	ld trip to a study	site)
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温 Temperate	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems 帯林生態系と炭 forest ecosystems	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究	forest ec の実際(調査地見	/	ld trip to a study	site)
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温 Temperate	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems 帯林生態系と炭 forest ecosystems	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究	forest ec の実際(調査地見	/	ld trip to a study	site)
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温 Temperate	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems 帯林生態系と炭 forest ecosystems	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究	forest ec の実際(調査地見	/	ld trip to a study	site)
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温 Temperate [履修要件 特になし	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems 帯林生態系と炭 forest ecosystems	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究	forest ec の実際(調査地見	/	ld trip to a study	site)
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温 Temperate [履修要件 特になし [成績評価	部の機能と光合 ction and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems 帯林生態系と炭 forest ecosystems	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究 and practice	forest ec の実際(e of carbo	調査地見 ² on dynami	cs studies(Fie		
Leaf trait an 第4回:木 Xylem func 第5回:熱 Tropical rai 第6回:亜 Boreal ecos 第7回:温 Temperate [履修要件 特になし [成績評価	部の機能と光合 etion and photosyn 帯多雨林および in forest and tropi 寒帯林生態系 systems 帯林生態系と炭 forest ecosystems] の方法・基準]	nthesis 熱帯季節林 cal seasonal 素動態研究 and practice	forest ec の実際(e of carbo	調査地見 ² on dynami	cs studies(Fie ートにより糸	8合的に評価す	

授業科目名 <英訳>	地震災害リスク Earthquake Disa		: Man	agem	ent	担当	Sector Sector	地球環境学堂 地球環境学堂		清野 古川	純史 愛子
配当学年	修士	単位数	1	開講	期 前	期前半	曜時限	1月3	授業	形態	構義
科目番号	3283	使用	日言語		日本	語 Ja	panese				
[授業の概]	要・目的]										
8	マネジメントの										る.
10 understa	nd basic theory of	e eartnqu	ake r	isk ma	anage	ment a	na praci	ucal cases of	uisaster c	untrol.	
	に付随する生命 や都市・地域の										
	「災・減災のため										ハワの配
It is essentia	al to correspond to	o earthqu	iake d	lisaste	er appi	ropriat	ely in or	rder to mainta	in safe so	ciety. T	his course
	owledge of variou sure for disaster p			aısast	er risl	ks and	earthqu	ake risk mana	igement a	s a	
授業計画	と内容1										
<u>-</u> 1. 講義の				メント	<u>、</u> の根	観					
2. リスク	マネジメントと				-						
4. 地震危	ードの定量化 た険度と災害										
5. 構造信	言頼性とフラジリ	ティカ	ーブ								
A	リスク評価 継続計画										
8	の地震災害対策	とうと									
1. Introd	uction of the Cou	rse. Gen	eral I	nform	ation	ofRis	s Manao	gement			
2. Risk N	Management and I	Basic Ma	athma								
	ification of Vario ic Hazard and Dis		rds								
5. Struct	ure Reliability and	d Fragili	ty Cu	irves							
	ic Risk Estimation ness Continuity Pl										
N. Contraction of the second s	ter Management i										
				0			and the second			na an a	
[履修要件] 特になし	.	ainte an teacher			<u>, 19. 19</u>				la su de la sub-		
L	の方法・基準]	- siel . ? - * *	<u> </u>		<u>.</u>	- 1	•				
8	夏レポート等の点 given based on att							orts			
			" PIIM"		01	~~~					
[教科書] 		- 2/10 VINI 6-1-			7		· · · · · ·				
8	ヽ.必要に応じて fied. Printed mate					Jessan	, •				
							1000 6000 600	ᆕ ╴᠁᠁᠁᠁᠁	2774		≝┍╴┍╷╸╹
								北 震火書	『リスク詞	⊞(∠)´ヽÂ	売く ↓ ↓ ↓
			<u></u>								

○栗村日石 <英訳>	持続的農村開発 Sustainable Rura		lopm	ent	担当		b球環境学堂 b球環境学堂		星野 橋本	•, •
配当学年	修士	単位数	1	開講期	月 前期前半	曜時限	木1	授業	铲態	講義
科目番号	3284	使用	目言語	<u></u> 吾	日本語お。	。 、び英語				
[授業の概	要・目的]		,	<u></u>						
contribute t 今日の農村 近年、過政 いつつある な農村を実 Rural areas produce to t of the work	f this lecture is to o maintain and/or 地域は、食料生 も、高齢化や経済 し、本講義では、 現するための話 provide various b the people. Howev l economy, has be ntion to the efforts	improve 産のみ のグロ 地域と 計論に enefits, l ver, ongo en impa	the なら ーバう つい know ping f	sustaina ず、様 ル化の 比較的 て講述 n as mu trend of functio	ability of n 々なめぐ 影響を受 ミクロな する。 ultifunction depopulat ns and sus	ural areas み(多面 けて、定 対象地域 nality of a tainabilit	前的機能)を 住空間とし 気において、 agriculture, a nging, combir y of those are	国民にも ての持約 計画論的 s well as ned with r eas. In thi	ったら 売性を う視点 agricu rapid g s lectu	してきたれ 大きく損れ から持続的 Itural globalizatio ure, paying
第2回 社 第3回 経 第4回 文 第5回 環 第6回 政	ーラル・サステ 会的側面:ルー 済的側面:地域 に的側面:地域 境的側面:生態 策的側面(1):	ラル・サ 活性化と ナレッシ 系サーヒ コミュ	ナスランシンシン ニンシンシン	テナビリ ミュニジ レーラル と人間の ィをべ	リティと¤ ティビジネ レ・サスラ D福利	地域力の 、ス ・ナビリ た農村彰	向上 ティ モ 源管理			
2.Social dir 3.Economic 4.Cultural d 5.Environm 6.Human di 7.Policy Di	al framework of F nension: Rural su c dimension: Rura limension: Local/ nental dimension: mension: Commu mension: Changir ns to rural sustaina	Rural Sus stainabil l revitali indigeno Ecosyste unity-bas ng facets	staina ity ar zatio us kr em se ed ru	ability a nd copin on and c nowledgervices a ural reso	nd Plannir ig capacity ommunity ge and rura and human ource mana	g of local business l sustaina well-bei gement	communities ability ng		apan a	nd their
[履修要件	1							••••••••••••••••••••••••••••••••••••••		
特になし										
[成績評価	の方法・基準] ートにより評価									

	地球環境政策諸 Exercise in Glob		onme	ental Poli	cy 担当	皆氏名	也球環境学堂 也球環境学堂 也球環境学堂	准教授	松下 松本 小畑	和夫 泰子 史子
配当学年	修士	単位数	1	開講期	後期不定	曜時限	その他	授業	形態	寅習
科目番号	3301	使用	目言語	B						
[授業の概]					1 2- 11424					
	御修と修士論文 internship and the					を行う。				
	Å		Ų		Ĵ					
[授業計画。	と内容]									
随時行う。	Conducted at any	y time.		<u></u>						
[履修要件]							~			
特になし										
[成績評価(の方法・基準]									
8	よる個別評価	4					**** **********************************			
Evaluation (by each advisor.									
[教科書]				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
授業中に指	1万9る									
ráp.áz. meter							an a			
[参考書等] (参考書)			·-,	· · ·						
授業中に紹										
(孝の4)	(授業外学習の排	***	77	270-						
8	アワー実施の有					ください	v) _o			
						–	-			

P	資源利用評価論 Exercise in Glob		conomics	担当者氏名	農学研究科	准教授 伊藤 順一
配当学年	修士	単位数 1	開講期 後期	明不定 曜時1	良その他	授業形態 演習
科目番号	3305	使用言語	F		ann an Air A	
[授業の概	要・目的]			n om kennen og men og som med seneret er en seneret er en som er en so		n promoning for a second second part of the second second second second second second second second second sec
関連文献	置づけられるの	,環境問題@				々の論文のテーマが, ど 執筆にあたっての問題意
[授業計画]	と内容]					
						づいて参加者全員で議論
分析方法	5,報告を希望す 5,参考とすべき (Stata)を用い	文献などに	ついても,	担当教員が	指導する。ま	た必要であれば,計量経 る。
[履修要件]	•		·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	く として,経済学	の理論的基礎	歴を習得し 日本 日本	ておくこと	が望ましい。	
§	の方法・基準]	· [·	+[+++			
報告およ	び討論の内容と	出席日釼を	朝系して評	価する。		
[教科書]						
使用しない)					
[参考書等]						
(参考書) 授業中に紹						
(その他	(授業外学習の指	示・オフィン	スアワー等))		
オフィス kais.kyoto-ı		、ない。メージ	ルでアポイ	ントメント	をとること。	メールアドレスは jito@
※オフィス	、アワー実施の有	所無は、KUL	ASISで確認	忍してくださ	い。	

發業科目名 <英訳>	社会基盤親和打 Exercise in Infrastruct		mental Eng	ineering 3	<u>国当者</u> 」		也球環境当 也球環境当				_ 武 徹	
配当学年	修士	単位数 1	開講	期後期	不定日	時限	その他		授業	形態	演習	
科目番号	3313	使用言		日本語	と英語	ā/Engl	ish and Ja	apanes	e			
[授業の概]	要・目的]											
nvironmen inderstandin 也盤環境工	al and analytical a tal engineering an ng of environmer 二学を中心とした -ション・討論に	re introduce ntal infrastru と社会基盤親	d. Prese icture er 観和技術	ntation a ngineerir 桁論に関	and dis 1g. 『する》	cussio 実験や	n is made 解析の目	to stre F法を	engthe	n the		
授業計画	と内容]											
 	Conducted at an	y time.								.,,,,,		
履修要件]				1999-1999-1999-1999-1999-1999-1999-199							
寺になし							, ,,					
[成績評価	の方法・基準]											
平常点によ	、り行う。Based	on the atter	ndance a	ind conti	ribution	1.						
[教科書]										· .	ы <u>л</u> ,	:
受業中に指	示する											
[参考書等	1			en de la composition de la composition A composition de la co			• * * • • • • • • • • • • • • • • • • •	•				
(参考書				i transformation Anna anna anna anna anna anna anna ann						- <u>*</u> * * *		
受業中に新	-											
(その他	(授業外学習の技	皆示・オフ	ィスア	フー等))							
	、アワー実施のイ					ださい	<u></u>					
							. 0					

授業科目名 <英訳>	景観生態保全論 Exercise in Lands		gy and P	lanning	担当		也球環境学堂 也球環境学堂			
配当学年	修士	単位数 1	開請	期後	期不定	曜時限	その他	授美	能形態	演習
科目番号	3319	使用意	言語	英語	/日本	語				
[授業の概]										
ランドスケ 習を行う	ープ・エコロシ	^ジ ーおよび	ランド	スケー	ープ・フ	プランニ	ング分野の	9専門性を	を高める	るための演
[授業計画] それぞれの	と 内容])研究計画に基つ	がき発表お	よび議	論を行	テう。					
[履修要件] 景観生態保	 全論分野の学生					Wallow Kang Constan				
-	の方法・基準] ´平常点評価					61201804100000000000000000000000000000000				
[教科書] 使用しない)	*****								
[参考書等] (参考書) 授業中に紹)	72.000.002507.000.000.000								
	(授業外学習の指					1 2.2.				
※オフィス	、アワー実施の有	ョ無は、K	ULASIS	で催調	恣して	くたさし				

M	陸域生態系管理 Evenaios in Tomost			Marra		担当者	皆氏名	地球環境学堂	教授	舟川	晋也
	Exercise in Terrest 修士	rial Ecosy	<u> </u>	1	T	1		良その他	授当	能形態 注	 割
	3331		<u>·</u>]言語	1				inese/English)			
授業の概			J CI DI				н (зара	mese Luguou)	· ·	-	
	管理論分野の研	「空に即ん	玄の	迎いて	7献お	諸誌1	内	家について計	協を行い	うレレナ	に 久労
	電理論力到の敬										
Discussion	is held based on li	iteratures	relat	ted to	the fie	eld of t	errestri	al ecosystems	manager	nent and	
respective r	esearch topics of	the stude	nts ir	ı ordei	r to in	crease	the kno	owledge and n	nethodolo	ogy of th	e research.
[授業計画	と内容1			en an							
	達成するための)文献購	読お	よび石	开究報	告を行	<u> </u>	全15回程度)	0		
To achieve	the objectives abo									ch topic	s are
	the seminar.					-				-	
P GEI MPETT III	2					2007-2003-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-					
[履修要件]		****									ene gen die Stads
特になし											
「成績軍軍術	の方法・基準]					an Bertana	, Alexandre		Norad J.	an ta shirit	
		: <u>t</u> h	総合	的に言	平価す	-Z-	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1		in the states	ay ya Kar	- 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 199 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997
	by the sum of scor						ation.				
					1						
[教科書]											
使用しない)						. — — — — — — — — — —				
			nije in		la ga de ter	1.1.2.54	<u> 1855 en</u>	19. 관계: 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19.	jang signal	New Alina	
(参考書	🗘 yang san pangkaran ing ping pangkaran										
授業中に約											
(その他	(授業外学習の指	詠・オ	フィ	スア	7一等	F))					
※オフィス	スアワー実施の有	う無は、	KUL	ASIS	で確認	忍して	くださ	い。 い。			
										and the second	

授業科目名 <英訳>	環境空間情報論 Exercise in Envir		oinform	atics 担当		工学研究科 工学研究科		田村 須崎	正行 純一
配当学年	修士	単位数 1	開講期]後期不定	曜時限	その他	授業	形態	闺
科目番号	3343	使用言言	語目	日本語					
[授業の概]									
地球環境お とする。	よび環境空間憎	「報学に係わ	る課題	について	の知識と	:問題解決創	自力を養成	するこ	とを目的
授業計画	と内容1								
毎週のセミ	ナーにおいて、					系わる課題に	こついて討	議する	っと共に、
5週に一度、	、個別のテーマ	について深く	く掘り「	「げ発表を	さする。				
 [履修要件]									
特になし									
rethe事章亚/王/	の七注。甘灌江								
<u>8</u>	の方法・基準] よる個別評価								-
r:#/r#\ ===									
[教科書] 使用しない)						, 		
[参考書等]			dan daga pagan karing panang ang bahar k					
(参考書)									
授業中に紹	5719 る								
Į	(授業外学習の措			一等))					
自発的にテ	ーマに取り組む	っことが望ま	しい。						
※オフィス	、アワー実施の有	須無は、KUI	LASIST	確認して	ください	1)°		lig skalen filmlan et geter die bestermen geter	

8	健康リスク管理		41. D:a	1. Mana		担当		地球環境学堂 地球環境学堂		伊藤	禎彦 信共
<英訳> 配当学年	Exercise in Environn 修士	单位数					<u></u>	地球 泉 現 子 呈 し その他	i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	越後 形態 2	信哉
							山田山立 内石		pzz		奥日
科目番号		192A	目言語	a							
[授業の概]	そ。日の」 何修と修士論文	作成に、		て目ん	木的た	·指道》	を行う				
	internship and the						-11 /0				
	•		•			-					
[授業計画							1. A.A.			· .	
随時行う。	Conducted at any	y time									
										•	
[履修要件]	normanistické s aktoristicky ubioblecticku glassicky ywater kuniter (www.esepticke) (publické									Balanti y	
特になし								······			
[成績評価	の方法・基準]										
	よる個別評価			•							
Evaluation	by each advisor										
[教科書]						i na inizi			en agus an e Mariae		una de traction
授業中に指	示する					이는 바라가 다. 이야기가 가지만 이					<u> 전 전 가</u> 가지.
1XXX.1.1C.1E											
[参考書等]	an Na ana amin'ny tanàna mandritra mandritra dia kaominina dia kaominina dia kaominina dia kaominina dia kaominina										
(参考書) 授業中に紹											
1文天二八二小	6, 6, 1/1										
(その他	(授業外学習の措	示・オ	フィ	スアワ	フー領	F))					
	、アワー実施の有									<u> </u>	

授業科目名	環境コミュニケ	ーション論注	寅習	山山本山々	抽 球	准教授 Tracey GANNON
<英訳>	Exercise in Environment	nental Communic	cation Studies	担当有仄石	地场垛坑于王	TEFXIX ITALEY GANNON
配当学年	修士	単位数 1	開講期 後期	明不定 曜時四	その他	授業形態 演習
科目番号	3351	使用言語	ī l			
授業の概要	要・目的]					
	offers guided stu	dy in topics re	lated to env	ironmental co	ommunication.	
授業計画	と内容]			ng antari antari Referense attractione		
iii) presenta discussion. develop the Advice on t	tion practice befor Group seminars a fr research skills a	ore their peers, re held regular as individual ro t will be giver	, course sup rly to foster esearchers a n individual	ervisor and g a supportive nd as collabo ly, through tu	uest lecturers, a atmosphere in prative member	with the course supervisor, and iv) group work and which participants can s of a learning community. a collective basis, through
[履修要件]	n an					
特になし						
[成績評価	の方法・基準]					
 2) presentat 4) thesis det 	ion skills and pre					torials and group seminars, t the end of the course, and
[教科書]	. : . : : . : : : . : : : : :					
	terials and course taking this cours		be determin	ed in accorda	nce with the re	spective study interests of
[参考書等]	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
(参考書 授業中に紹		nerentinan menerenten er en			<u> </u>	
(その他	(授業外学習の排	示・オフィン	スアワー等			
※オフィブ	、アワー実施の有	所無は、KUL	ASISで確認	思してくださ	w _o	

授業科目名 《英訳>	環境マーケティ Exercise in Environ			, Manager	nent 担当	 皆氏名	地球環境学堂~	准教授	吉野	章
配当学年	修士	単位数	1	開講期	後期不定	曜時別	その他	授業	形態	寅習
科目番号	3357	使用	目語	i F	本語 Jap	anese				
「授業の概										
論の基礎理	「インターンシッ !論及び方法論の 記と議論を行いま	習得を目								
theoretical a	on basic literature and statistical anal			-	•			h aim of	training	g for
	60	よ(書)、	k	45	1140	目立二	トフレン注ノー	ホフィナ・オ		がみ相二
板などで、 ングはガラ ません。本	 読では、日本人 消費者のヨコの リと変わりまし 、年度は、比較的 、最近のマーク 、う。)つながり た。環切 しよくまく	りが ⁻ 竟マ- とめ	できたり ーケティ られてい	り、デー: ィングも- いるマー/	タベー その中 ケティ	ス技術が発達し で理解しないと ング論の教科書	って、最 と、なか 書があっ	最近のマ いなかす ったのて	マーケティ 、 質が見え 、 これを
1. マーク 学ぶ人も大	ーティングの基礎 に丈夫です。	き:マーク	ケティ	ィング詞	論の基本は	概念を:	学びます。はい	じめてマ	アーケラ	ィングを
きたか、に し、今回は	行動の分析:マ こついて学びます は、特定の分析手 数をやります。こ	-。自分 - ─法の習征	で分材 得より	所する。 りも、	となると、 どんな分 ⁷	この	あたりの知識が があって、どの	がモノを のように	と言いま	ミす。 ただ
3. マーク	「ティング環境:	マーケー	ティ、	ングに	おける競	争環境	と流通環境にな	ついて学	さびます	0
ィ化」とい	「ティング戦略: いった最近の話題 責任のマーケティ	を加え、	Γ	関係性	マーケテ	ィング	」「インタージ	· · · · · · ·		
[履修要件]										
特になし										
I	の方法・基準]									
	ニよる個別評価 by each advisor									
			3 parato 40	201075 201075 EU2076		ESCUEL BEACCI E	電気マーケラ	ティング語	斎濱習(2)	へ続く〕↓↓
	環境学的アジア Exercise in Environmental			nicHistory	担当社	皆氏名	地球環境学堂	教授	籠谷	直人
-------------------------	--------------------------------------	---	-------------	---	--	--	--------	-------	-------------	-------------------------------------
配当学年	修士	単位数	1 開講	期後期	月不定	曜時阻	その他	授業別	形態 演	習
科目番号	3359	使用	言語		a men en angele angele angele angele ang					
[授業の概										
R	研修と修士論文					を行う。				
	internship and the	2515 W111 C	be given ir	iaiviau						
[授業計画]		-								
	Conducted at any	/ time								
[履修要件] 特になし										
					an an ann an tha ann an tha ann an tha					
	の方法・基準]		· · · · ·	i.						
8	よる個別評価 by each advisor									
				สมสัมนาสตารระสงอนส						
[教科書]						<u>Alphael</u>				
授業中に指				t na ta di sadi na ji		11.11.11.01.2011 (0.11.10.11.01.01.01.01.01.01.01.01.01.01				นักระ และรับและสาราสตรรณชาติ (1996)
(参考書 授業中に新	四介する	an un a complete de la constante a comp					-	, 		
1	(授業外学習の措									
※オフィス	スアワー実施の有	育無は、 1	KULASIS	で確認	8して	くださ	い。			

	国際環境マネジ Exercise in Intenation			担当者氏名		
配当学年	修士	単位数 1	開講期 後期	朝不定 曜時限	! その他	授業形態 演習
科目番号	3363	使用言語	Ē Englis	sh		
「授業の概要		· //				
	′研修と修士論文 internship and the					
		0*		-		
[授業計画]						
	Conducted at any	y unite				
[履修要件]						
				anagement Pro	ogram (G30 Progr	
	の方法・基準] よる個別評価					
	- よる100万評1100 by each advisor					
[教科書]						
授業中に推						
[参考書等]						
 (参考書) 授業中に新 						
l	(授業外学習の排					
※オフィン	スアワー実施の有	う無は、KUI	LASISで確認	※してくださ	ℓ [∧] ₀	

受業科目名 <英訳>	地震災害リスク Exercise in Earthqu		k Manage	ement 担当		也球環境学堂 也球環境学堂		清野 純史 古川 愛子
配当学年	修士	単位数 1	開講期]後期不定	曜時限	その他	授業別	衫態 演習
科目番号	3366	使用言	语					
[授業の概]	要・目的]	n						
	研修と修士論な				を行う。			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
Advices on	internship and th	esis will be g	iven indi	ividually.				
[授業計画	と内容1							
	Conducted at an	y time						
[履修要件]	1							
時になし								
1912 010								
		·						
[成績評価	の方法・基準]	aan minimum ta fan yn styl yn fal yn ar yn men yn ar yn argel ac yn argel ar ar yn argel ac yn ar yn ar yn arg						en geta generale og en en en geler i de og på blan en en en en skaldet en en de og blandet en en en de blandet r
	よる個別評価							
Evaluation	by each advisor							
[教科書]								
[5074] 授業中に指	示する	· . ·						
nda -by state								
[参考書等]								
(参考書 授業中に編								
(その他	(授業外学習の技	旨示・オフィ	スアワ	-等))			·	
※オフィフ	マアワー実施の	有無は、KUI	LASIST	「確認して	ください	() ₀		

授業科目名 <英訳>	大気環境化学論 Exercise in Atmo		Chemistry		担当者氏	名 地	」球環境学堂	教授	梶井	克純
配当学年	修士	単位数	1 開講	期後期	明不定 曜日	寺限	その他	授奖	能形態 演	[꾑
科目番号	3368	使用	言語							
[授業の概]										
3	研修と修士論文 internship and the					う。				
Auvices on		515 WIII U	e given n	luiviuu	any.					
[授業計画]	と内容1									
	Conducted at any	y time						*****		
						·	•			
[履修要件]					/ 					
<u>し</u> 一 特 に な し								·	and the second sec	
10000000000000000000000000000000000000	の七注,首治1									
	の方法・基準] よる個別評価	17 % 18 6 19 6 19 6 19 6 19 6 19 6 19 6 19 6							<u>, 1997</u> 1997	
	by each advisor									
[教科書]										
授業中に指	示する				an a		ng papangkang da mengenakan kanan menakan m			
[参考書等				tal et l					lyi da iş	
(参考書) 授業中に紹										
	(授業外学習の排					· ۲۰	·····			
※オノイメ	、アワー実施の有	∃荒は、№	ULASIS	い作家	$S \cup C \setminus T$	24	'o			

B	里山再生論				扣出;		地球環境学			柴田	-
	Regeneration of		1	<u> </u>		۔ ا	地球環境学 T		1	深町	加津枝
配当学年	修士	単位数 1	開講	钥 前其	朋集中	曜時限	集中講義	褎	授業	形態	講義
科目番号	3507	使用言言	199	日本語 necess		要に応	じて英語)) /Jap	panese	(Engl	ish if it's
察する。	要・目的] (的自然の伝統的 concerning regend							な自然の	の再生	方法に	こついて考
つき合い方 後の里山の We will dis the understa	と内容] の自然環境を考 が失われつつあ 理想的なありた cuss about Satoya unding of loss of t ent of Satoyama.	うる現況を踏 うを模索する una as one of	まえ、 。 the mo	再生 ost imj	の可 f portan	能性、有 t second	有効な活月 lary forest	目手段 ^{」。} vegeta	や方策 tion in	等を Japan	検証し、今 Through
[履修要件] 特になし											
	の方法・基準] fiは、出席状況と - トによって行う Graded by attenda	。特に筆記	試験は	は行わ	ない。		および、	適宜望	要求さ	れるう	テーマに基
8	環境学』(東京ス スケープデザイン		È] (1	角川書	書店)		ι ·	·			
						pman &	Hall)				
講義は集中	(授業外学習の排 □講義の形で行う 学外講義(見当	。実施時期				ともに、	里山の理	見状を算	実際に	知るフ	ため、天候
Reading Lia 1)中島道 2)小方宗 3)Hanne	レグリスト(文団 st 道郎:農用林概記 ミ次・柴田昌三: ss Palang & Cary 1 ademic Publishers	说、朝倉書店 ネコとタケ Fry (ed.) Lan	i、195 、岩涧	2 支書店	200)1		n Chan	ging L	andsc	apes,
※オフィス	スアワー実施の有	う無は、KUI	LASIS	で確認	思して	くださ	い。				

	環境情報処理 Information Processin	g for Enviro	onmen	tal Mana	gement	担当	皆氏名	地球環境学堂 准 地球環境学堂 准	教授 西前 教授 水野	出 啓			
配当学年	修士	単位数	2	開講			曜時防		授業形態				
科目番号	3601	使用	jt	5	英語、		3日本語	English and so	ome Japanes	se			
[授業の概]	要・目的]												
(GIS)の利用	[授業の概要・目的] 環境の状態やその人間活動との関わりを空間的に分析,計画する手段としての地理情報システム (GIS)の利用について学ぶ。GISによる空間情報処理の基礎,各種統計データを利用した地域分析, ならびに地域開発計画へのGIS応用について,具体的事例による実習を交えて講述する。												
To learn the Information	methods of spati Systems (GIS). I al analysis using s	al analys Lectures	is an and c	d planı ase stu	ning c idies (of hum on the	an-envi basics o	ronment interacti of spatial informa	ons using G tion process	eographic ing with			

given.

[授業計画と内容]

第1回:ガイダンス

講義の目的と内容,実習機器(パソコン,GISソフトウェア)の取り扱い等について説明する。 Week 1: Orientation on class outline, learning equipment and materials.

第2回:空間情報とGIS

空間情報の種類,特性,処理に関する基礎知識,地理情報システムの原理と機能の概要を講述し, 地域環境の分析,地域計画へのGIS応用について具体例により解説する。 Week 2: Basics of spatial data processing and GIS application.

第3~8回:ArcGISによる主題図作成

代表的GISソフトウェアであるArcGISを用い,地図の表示・編集の基礎,ベクタデータおよび属性 データベース処理の基礎技法を習得する。また統計データを収集・加工し,課題に基づく地図を作 成する。

Weeks 3 - 8: Basics of map and database processing using ArcGIS, and map making with statistical data.

第9~15回:開発のリスク・適性評価

開発シナリオに基づく地域の将来像をGISで描く"Alternative Futures"の理念と手順,およびグリッドデータ処理の概念と基礎技法を講述し,事例地域における開発のリスクと適性の評価を行う。 Weeks 9 - 15: Development risk and suitability assessment by grid data based on "Alternative Futures" framework.

[**履修要件]** 特になし

「環境情報処理(2)へ続く↓↓↓

授業科目名 <英訳>	陸域生態学 Terrestrial Ecolo	gy				担当	皆氏名 生	態学研究センター 冫	准教授 谷内	茂雄
配当学年	修士	単位数	2	開講	胡	前期	曜時限	木1	授業形態	講義
科目番号	3627	使用	引言計	E E	日z					
[授業の概要	要・目的]									
 陸上でおこ に、人間活 群の変動、	る多様な生態学 動が原因で生態 伝染病の流行、 といったテーマ	系に引 多種共	き起 存の	こされ しくみ	1る: 人、:	環境問題 生物多相	夏につ↓	いても考えてし 夏失、生態系 †	いく。具体的	には、個体
ecological th on ecosyster various mec	inderstand variou ninking. In particums. Specifically, hanisms of species nd global topics.	ular, we a we cons	focus ider 1	s on th the fol	e en lowi	vironme	ntal issu s: change	es that are cau es in animal po	sed by human opulation, epid	activities lemics,
 生態学 2.個体群 3.伝染病 4.群集の 5.生物多 6.生態系 	と内容] ついて、各2週 入門(陸生島 の変動をとらえ の流行をを理解 様性の現状を知 と社会の関係を 態系と地球生態	系) る(安 する(閾 する(4 ろ える	定値多つ() 存 存 () () () () () () () () ()し ナー	くみ) ビス)				
 Introduct Populatio Predicting Coexister Loss of b Ecosyster 	classes on the fo ion to ecology (te on dynamics in the g the outcome of nee of many speci- iodiversity (four 1 m and society (ec d ecosystem and	rrestrial e wild (st epidemic les (vario kind of c osystem	ecos tabili es (th ous m risis) servi	ystem) ty) reshol rechan rechan	d) ism	5)				
[履修要件] 特になし										2 (2010)
レポート記	の方法・基準] 【験(60%)と毎 by Report(60%) a					こよって	「評価す	る。		
[教科書] 使用しない)									
	1929 1929 1939 1995 1929 1939	630033 63035 AZO	107) Sácata	Rouges sources			12222 6272 6265	一陸域生態	孛(2)へ続く 〕	↓↓

授業科目名 <英訳>	グリーンケミス Greening Chemi		stry		担当者	皆氏名	工学研究科	准教授	松田	知成
配当学年	修士	単位数 1	開講期	月前期	明集中	曜時防	集中講義	授業	部態	購義
科目番号	3687	使用言語	A	Japan	ese					
[授業の概]	····									
毒性メカニ 学物質管理	出される代表的 ズム、リスク評 の規制法律、PI に関するアッフ	² 価の方法論 RTR法等につ	として ついて角	バイ 解説す	オアッ トる。	ッセイ、 また、	バイオマー	-カー、毒	針性削減	汸法、化
	ounds such as car be discussed abo									
This class w	vill also mention a		+				Ų			
chemistry a	nd technology.									
[授業計画	レ内容1									
8	、化学物質の環	境中挙動	*******					· · ·		
・毒性物質 ・毒性物質	基礎:毒性の種類 【各論:放射性物 〔の管理:毒性記 〔のグリーン化:)質、重金属 、験の実際、	、多環 化審法	送香 、PR	族、 XTP、	ズイオゴ RoHS措	キシン、内分	∱泌かく舌	儿物質	
• The basis micropollut	e: basic technical t of toxicology: cl ants. unetal contaminar	assification o	f toxici	ty, in	dex of	toxicit	y, distribution			
• Managen	nent for toxic cher emistry and techn	nicals: Toxic		-		-				F
[履修要件]									· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	a or go chana Geografia
特になし	ſ									
	の方法・基準]									
レポート携 Report										
report										
					,					
	900 ees 200 100 100 100		2020) Koona B			EDITER ECTERN FOR	「グリーン	ケミストリ	一論(2)~	続<↓↓↓
L		i i i i i i i i i i i i i i i i i i i		a in aguna aghannacha				ga daga kana kana ang kana kana kana kana ka	ารุโก้กระบบของการแขนของไป ใจและ Xana ปัจจุบาทได	nan na mangan manan kanan na pandapat a na mga manakan man

	環境デザイン論 Environmental D		searcl	h	担当		也球環境学堂 也球環境学堂			
配当学年	修士	単位数	2	喌 講期	後期	曜時限	月2	授業	形態	講義
科目番号	3707	使用	言語	E	本語			naamaan ah		
れ月湾環イのす 予におる設デ学本響 御知識このザと的を 御知識をと ういんしょう しんしょう ひんしょう うんしょう うんしょう うんしょう うんしょう うんしょう うんしょう しんしょう うんしょう しんしょう うんしょう しんしょう しんしょ しんしょ	要・目的] ン学とは、人間 、学しはのの 環境を の む 記 訳 で 色 彩 訳 で 色 彩 訳 で 色 彩 訳 で の む 記 計 イ で 、 て で 色 彩 い で の む 記 計 イ で の の む に の の む に の の む に の こ 。 で の で の む の 記 訳 で の の む 記 訳 で の む 記 訳 一 、 て の の む 記 訳 一 、 て の の む む 記 計 イ の む む 記 計 イ の の む む 記 計 イ の の む こ 。 一 、 、 の の む こ の む こ 、 の 、 の で う 、 、 の で う 、 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の	計然、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	デヒデ竟デのデー	、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	な育に活った。 実践にする にたる の にたる の にたる にたる にたる にたる の にたる にたる にたる にたる にたる にたる にたる にたる	かし、生 フィーい を し し て 、 を り 日	活の質を向 「講義けで」 に、 たいでする に して た の 究 で る な は ま で し る で の 調 義 け で う に の で る で る で る で る で る で る で る で る で ら で ら	上させる 、 土木構 く 芸術も る努力て たそれか	ため、 た 物 、 、 、 、	実際に 適都市・ 港 環境 デザ この 分野
1)環境デザ 2)災害時の 3)自然災害 アジアの地	然環境災害と人 イン学とは何か 人間行動(2回) と人間居住5回) 2震、津波、噴火 (、津波、噴火と	、(2回) 、災害	亡 亡							
4)建築と土 橋、トンネ 5)木製都市 世界の木造	デザインの実践 木構造物の環境 ル、広場、港湾 の設計(2回) 建築と都市 ム構法とシェル 度の確認	デザイン 変施設の	景観・		史計					
[履修要件] 特になし										
[成績評価	の方法・基準] 席と、課題レオ	ポートの	提出は	こより言	平価する。)				

「環境デザイン論(2)へ続く↓↓↓

授業科目名 〈英訳〉	アカデミックライ Academic Writir	ティング ng and Pr	・プ esen	レゼンス: tation Sl	^{キル} cills 担当	皆氏名	地球環境学堂 准教	牧授 Jan	e SINGER
配当学年	修士	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義
科目番号	3709	使用	言語	吾	E語/ Engli	sh			
授業の概	要・目的1				Najst (spa	g and a start of			

Students in this course will review and practice organization, mechanics and grammar as needed to write publishable English-language academic research papers. They will also learn to make more effective, well-organized and cogent verbal presentations.

This task-based course will cover the structure and rhetoric of academic papers, preparation of outlines and abstracts, thesis statements, key stylistic elements, support and documentation. In the latter part of the course we will practice academic presentations skills for academic presentations and each student will make a presentation to the class.

[授業計画と内容]

- 1. Intro. to the writing process: Paragraph and report organization
- 2. Research and gathering information; peer editing
- 3. Thesis statement and research proposals
- 4. Note-taking and organizing notes
- 5. Plagiarism; paraphrasing and summarizing
- 6. Parts of the report: Introduction
- 7. Literature review and language focus
- 8. Parts of the report: Body/ Methods, results and discussion
- 9. Parts of the report: Conclusion
- 10. Parts of the report: Abstract
- 11. References and documentation: APA style
- 12. Introduction to presentation skills
- 13. Presentation practice and preparation
- 14. Individual presentations
- 15. Individual presentations and review

┛アカデミックライティング・プレゼンスキル(2)へ続く↓↓↓

配当学年	修士	単位数 2	2 開	講期	前	期	曜時限	!月4	招	受業形態	講義
科目番号	3729	使用	言語	英	語/]	Englis	sh				
授業の概	要・目的]			in de la composition de la com	De est		· .	anah mulainan kita pawa ngalanan nakaru dan wang da 	an the second		
atural reso onflicts at cectures, d overnance xpansion a	e will introduce s ources. Students various levels an iscussions and ex e, such as adaptat and payment sch	will learn th nd in differe cercises wil tion to flood	ne nece ent con 1 addre 1s, 1ano	essary itexts. ess sel d grab	metl ected bing	hods a d cont in lea	and skil	ls to analyze ary challenge	and add s in nat	dress nati ural reso	ural resourd urce
授業計画	に内容」 efinitions and pr	nciples of a	malita	tive co	 	Tecea	rch rele	ative strength	of an	alitative	ve ve
	e approaches	incipies of t	juanta	1100 50	Julai	resea	ren, ren	auve strengti	is or qu	antative	v 5.
Veek 2: D	esign of qualitati	ve research	(resea	rch qu	uesti	ons, c	oncepti	al framewor	k)		
	lethodological co			-			-		,	valuation)
	-	•									,
	: Specific qualita p discussions)	tive researc	h metl	hods (partı	cıpan	t observ	ation, in-dep	oth and :	narrative	interviews
	articipatory approach and practice	baches to ag	griculti	ural re	searc	ch for	rural d	evelopment:	Concep	ots, appro	aches,
	pecific participat ry Rural Apprais	-	erdisci	plinar	y res	earch	technic	lues: Rapid F	Rural Aj	ppraisal (PRA) and
Week 8: D	ata preparation,	data coding	and te	extual	data	analy	sis				
Weeks 9-1	2: Small study p	rojects in gi	roups								
Week 13: (Computer Assist	ed Qualitati	ve Dat	ta Ana	alysis	s Soft	ware (C	CAQDAS): Ir	ntroduct	tion	
Week 14: (Computer Assist	ed Qualitati	ve Dat	ta Ana	alysis	s Soft	ware (C	CAQDAS): A	pplicati	ions	
Week 15:]	Presentation of fi	ndings from	n study	y proje	ects a	and fi	nal eval	uation of the	course		
[履修要件	-1		R gel								
寺になし											

<英訳>	自然資源ガバス				1		Lef. as Deemit E-de XXZ XIZ	+11.1=		
	Natural Resourc		ce II		担当	者氏名	地球環境学堂	教授	Andr	eas NEEF
配当学年	修士	単位数 1	開講	期後	期集中	曜時限	集中講義	授業	能形態	講義
科目番号	3731	使用言	語	英語	/ Engli	sh				
	要・目的]									
natural resc conflicts at Lectures, d governance	e will introduce sp ources. Students v various levels an iscussions and ex e, such as adaptati and payment sche	vill learn the d in differen ercises will on to floods	e necessa at contex address , land g	ary me cts. select rabbin	ethods ed con g in le	and skil tempora	ls to analyze a ary challenges	ind addre	ess nati	ural resource
[授業計画	と内容]									
Lecture 1: 1 resource go	Introduction to po	olitical ecolo	gy appr	oache	s and r	najor co	ontemporary cl	hallenges	s in nat	tural
-		. 1 1		1.01	1 1.			.1 1 *	11 ' 1	
Lecture 2: . and Vietna	Local adaptation m	to climate cl	hange ar	nd floo	od disa	sters: C	ase studies fro	m the hi	llsides	of Thailand
Lecture 3:	Socio-economic a	and environr	nental i	mpact	s of th	e global	biofuel boom			
Lecture 4:	Land grabbing in	Southeast A	sia and	Afric	a: Mec	hanism	s and coping s	trategies		
Lecture 5:	Methods of analy	zing stakeho	olders'	intere	ests in	natural	resource gove	rnance		
	Payments for Env radation (REDD-		Service	s (PES	5) and 3	Reducir	ng Emissions f	rom Def	orestat	ion and
Lecture 7:	Preparation for ro	ble play in si	nall gro	ups						
Lecture 8:	Upstream-downs	tream confli	cts in a	waters	shed co	ontext: H	Roleplay (Exai	n)		
[履修要件	-)									
特になし										
[成績評価	「の方法・基準]									
	vill be evaluated c stream-downstrea			-			-	ormance	in a ro	oleplay on
							一一一一一 自然資源7			

<英訳>	東南アジアの環 Environment and		outheast	Asia <mark>担当</mark>	者氏名	東南アジア研究 	所 准教授	安藤	和雄
配当学年	修士	単位数 2	開講期	前期	曜時防	月3	授美	能形態	講義
科目番号	4002	使用言	語 身	英語/Engli	sh				
[授業の概]	要・目的]								
ィクスとい する。講義 (人2回)で テムとその 生業と社会 ジェンダー Case studies global issue politics as w Lecture will copic will be development administrate in mountain	いて、技術的・ った点からも幅 は、多彩な専門 行う。取り上け 変容、森林・ 放 変容、棚田の係 、技術変容など s on the sustainab s on environment vell as technologic be held in omnib e discussed during at in a delta land, son/utilization of c lous area, local de er, transformation	a広くとりあ 分野をバッ でるトピック な牧地など地 全と地域開 である。 le utilization and human cal and ecolo ous style by s g a session of swidden syst ommon reson evelopment a	が、南 クグラ スの例 域共有 引発、地 of natur life using ogical poi ix profes f two lect em and i urces/lan nd maint	アジア、 ウンドと としては 資源の管 球規模で al resourc g ethnic is ints of vie ssors who tures. Toj ts transfoi d, liveliho	日本との する6名 、大河/ 理・利月 進む社会 es in Sou sues, dev w. have a v pics will mation, pod and s	D比較の視 名程度の教 川デルタの 用と住民組 会の高齢化 utheast Asia velopment, s pariety of ac be such as community social transf	点を含め 員による 農業と農業 織の問題、 に関する and the su socioecono ademic bac agriculture based orga formation o	固別事 「 」 「 」 「 】 二 、 二 、 二 、 二 、 二 、 二 、 二 、 二 、 二 、 二	例的に が ス 焼 切 シ 数 民 が し い の ま を の よ に た コ シ の 次 に が ス に が ス に が ス に の の 方 コ シ の の 方 の の 方 の の の つ の 方 の の の の の の の の
第2回:(安	-		変容とそ	の広がり	-古代か	ら展望する	31	何を言	まなぶ意
第4回:(沪 第5回:(沪 第6回:(沪 第7回:(清 第8回:(第9回:(第10,11回: 第12回:(「野)東南アジ 「 可野)東南アジ 青水)生存基盤とし (((大) (大) (大) (大) (大) (大) (大)	ア大陸部に ア大陸部に	おおな文祖祖のぐて、 おけけ・化ととと とした とのでの の の の の の の の の の の の の の の の の の	発と持続に、 発と境: い の 的 の 会 と に : 部 展 屋 に い か 的 の 会 と と : い 的 的 ら 会 た い か の ら ら と し こ の の ら の ら こ ら ろ の ら の ら こ の ら の ら の ら こ ら ろ の ら の ら ろ と こ ろ ろ の ろ の ら の ら ろ ろ ろ の ら ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	性1 性2 と部ルソン い ー 小 れ ル ノ ン ン ン 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	シ先住民の 先住民の事 資源管理 模ビジネス	の事例から 耳例からー へ		×
with South	Vhat can be learne Asia and Japan. Isformation of ag		-						-
times 1	sformation of ag				_				
	Development and	sustainability	y in the S			ontinent 1			
	evelopment and :: Natural and cul	sustainability tural environ					l: a case st	udy of	indigeno

授業科目名 <英訳>	生存圏診断統御 Science for Diagnosti	cs and Control of Humanosphere				皆氏名	生生生生生	存圈研究所 存圈研究所 存圈研究所 存圈研究所 存圈研究所 存圈研究所	教授 教授 教授	山本山崎邊	雅衛 淳一隆俊
配当学年	修士	単位数	2 閉]講期	後期	曜時降	退 >	木2	ţ	受業形態	講義
科目番号	4005	使月	目言語	英	語/Englis	h					
[授業の概]	要・目的]									in a she and a she was the star of the	
人類の生存圏である人類生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏などにおいて、人類社会の持続的発展を 考える上で重要となる自然あるいは人為起源の現象がどのように生起しているのかについて明らか にする。特に、地球大気環境の精密な計測手法について紹介するとともに、観測情報の統合的な解 析を通してそのメカニズムを総合的に分析する。また、森林の作用に注目しながら、生命科学的観 点から森林資源としての木質の形成機構の解析・統御方法について考察するとともに森林の環境修 復を目指した研究を紹介する。授業は原則英語で実施する。 【研究科横断型教育の概要・目的】 農学、工学、情報学、理学という広範な研究分野の背景を持った教員による分野横断的な学際教育 を通して、持続的社会の構築に必須な生存圏科学の発展に寄与する教育を行う。これにより、総合 的な知識と俯瞰的かつ国際的な視野をもち、生存圏の科学の発展に寄与する人材育成を行う。											
第1回:(塩 第2回:() 第3回:() 第3回:() 第5回:() 第5回:() 第10回:() 第110回:() 第14回:() 第14回:()	【授業計画と内容】生存圏科学に関する下記の講義をリレー式で行う。第1回:(塩谷) Introduction/The atmosphere viewed from the satellites第2回:(山本) Atmospheric Remote Sensing I第3回:(津田) Climate and Weather of the Sun-Earth System第4回:(津田) Electromagnetic waves and Earth's environment第5回:(山本) Atmospheric Remote Sensing II第6回:(塩谷) Changes of the atmospheric air quality第7回:(梅澤) Tree biotechnology in the post-genome era I第8回:(梅澤) Tree biotechnology in the post-genome era II第9回:(杉山) Wood Collections and related sciences I第10回:(渡邊) Conversion of biomass resources to fuels and chemicals I第11回:(杉山) Wood Collections and related sciences II第12回:(渡邊) Conversion of biomass resources to fuels and chemicals I第13回:(大崎) Role of terrestrial vegetation on the prevention of the global warming第14回:(矢崎) Plant secondary metabolite supporting quality of human life										
[履修要件]		,				.*			1	:	
特になし											
[成績評価	の方法・基準]		an a						N		
出席状況 Evaluate ma	(授業時の発表) ainly by the prese n in the class into	ntations	in the c				tern	n report, tak	king a	ctive and c	onstructive
	onna enes exer enna fons	100001 E2003 1990	2 600 0 60000	2000) 2000)	antan karna		teora E	生存圈診路	新統御	科学論(2)	「続く↓↓↓

授業科目名 <英訳>	生存圈開発創成 Science for Creative Resea		oment ofHumanosj	phere <mark>担当者</mark> .	氏名	生存圈研究所 生存圈研究所 生存圈研究所 生存圈研究所 生存圈研究所 生存圈研究所 生存圈研究所 生存圈研究所	教准教授 教授授 教授授授授 授授授授	小川田吉大篠小松井中村村原嶋	幸秀文剛善真浩平一男 治毅嗣	
配当学年	修士	単位数 2	開講期	前期	冒時限	!木2	授業	形態	構義	
科目番号	4006	使用	言語 原	則英語によ	よる授	業/English				
[授業の概]						-				
ざまな事象 察するとと ギーの利用 おなど人類 語で実施す	響圏である人類生 のが発生している また、宇宙空間 して、持 ないの宇宙への生育 である。 もの要すの概要	。この生 から地表 続的社会 の宇宙活 圏の拡大	存圏の悪化 に至る生存 の構築に向 動を左右す	この現状を 字圏の新た 可けた木質 する宇宙電	打破しな開発資源の	ノ「治療」に ^え 創成の可能 O循環システ 滝の衛星観測	結びつく 性につい ム構築の や計算機	方策に て、太)ための 後シミュ	ついて* に陽エネル し技術開発 レーシ	考ル発ヨ
農学、工学 を通して、	劇 空教育の概要 学、情報学、理学 持続的社会の構 2 俯瞰的かつ国際	という広 算築に必須	な生存圏和	4学の発展	に寄り	テする教育を	行う。こ	れによ	くり、総合	
授業計画	54	·								
第1回:(小 第2回:(小 第3回:(第50回:(第60回:(第7回 第80回:(大 第9回:(大	を限する下記の 松) Development 松) Development 村) Termites - th 村) Wood-attack 中) Structural Str 中) Computation 中) Computation 中) Life Cycle A here 村) Computer sir 村)Electromagne 川井) Developme	t of Low E t of Variou e role as ea ing beetles udy of Nat al Chemis nalysis and nulations i	nvironment as Engineere co-system en a - biology a ural Polysac try in Polysac d Material F n space plas ument in the	al Load and ed Timber Jo ngineers - nd control s echarides. accharides. 'low Analys smas and the Earth's mag	oints strateg sis of V eir app gnetos	ies - Wood-based M plication to su sphere	/laterials stainable	in the human	osphere	
第11回:(征 第12回:(征	篠原) Microwave 篠原) Solar Powe 小嶋) Exploration	r Satellite		agnetic env	ironm	ent				
		unes bits stats			21 EXC23 3242	一 生存圈開發	名 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	≓論(2)^	- 続く↓↓	ļ ↓

	環境生物·物質				相当		化学研究所			
	Environmental Cl	nemistry	and F	Biochem	stry		化学研究所	教技	受 中村	正治
配当学年	修士	単位数	2	開講期	前期	曜時防	人2		授業形態	講義
科目番号	4007	使用	目言語		本語(場合に応	ふじて英語)			
[授業の概]						• If . Is				
化に対応し や機能など理解 展望合成い解 と新しい解	にたり との関 してどの するた 大 のするた が ま た の の に 構 が 、 の する た 志 惑 の の する た 志 惑 の の て の する た 志 惑 の の て の する た 志 惑 の の て の する た 志 素 し の て の する た 志 素 し の 示 、 明 で の うる た あ あ の た 志 奏 志 の 志 、 志 の の て 、 売 の で し の で 、 売 で の で 、 売 で の で し で 、 、 新 近 の に 、 新 一 の で し に 、 新 一 、 で し に 、 、 新 し の に 、 、 、 の し の た し の た し の た し の に 、 た し の に 、 、 、 の に し に い 、 知 に に い い 、 知 に い い 、 知 に に い い 、 知 に の の で し い 、 知 に い い 、 知 に い い 、 知 に の の の の 、 の の し い 、 知 に 解 ご い 、 知 に の い 、 知 に の い 、 知 に の い 、 、 の の し い 、 知 に の い 、 、 の の 、 の の の 、 の の の の の の の の の の の の の	動を示、概率になって、	す激説手素りの生す法で、持	か物るや置画続かが物るや置画続いのかりです。、き期にした。	りやす環境 の、料る たり で の で の の の の の の の の の の の の の の の の	解応物関、もい物類	るとともに、 それに関い 主体、すない あるな が料を開発 オ料を開発	(重いわ、する)	[活性をもるどの) に体成利用のだの になっていた。	つ微量元素 生体成分相互 う状を作る 現た めの理 ための 理論
[授業計画	と内容]									
第3回(阿 biological in 第4回(馬 第5回(馬 第5回(6回(6回 第10回 第10回 第110回 第12回 第12回 第13回 (年 第13回 (年 第15回 (日 第 15回 (日 第 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	 1) 元素利用の 1) 元素利用の 1) 生体分子 1) 生体分子 1) 生体分子 1) 生体分子 1) 生体分子 1) 情報 1) 遺酸素 1) 遺酸素 1) 進酸素 1) 大都 1) 一次 1) 二、 <l< td=""><td>現ネrkッの。cienst ロも材地表の進物素状ット化 に発 ロも材球面の 展質 トント ワ学 こうりの しんかい しんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう ひんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょ しんしょ</td><td>望一 ク健 進 ネノ新 子 al e c e al e o に ち e o に ち e o に も の た の に の の の の の の の の の の の の の</td><th>How to わの情報 のすう クラお・ マクポ・ マクポ・ マクポ や マクポ ・ マクポ マク ス の 見 た マク ス の 見 た マク ス の 見 お・ マク ス の 見 お・ マク ス の 見 の の 月 の の 見 の の 月 の の 日 の の の の の の の の の の の の の の</th><td>o use eler 科学 、</td><td>nents and Computat グ Cluste 学 Chemi very, dev () Orga Vanoscal velopmen l global e J理解 S analysis ces and n etals</td><td>I their future tional and manual ring over ge- istry of react velopment ar unic light-em e materials v at of new fun environment Spectroscopi</td><td>applic athem ne net ive ox nd role itting vith in ctiona c anal hesis</td><th>cation atical analy works ygen speci- e of organic diodes novative fu l oxide ma ysis of mol</th><td>es in relation</td></l<>	現ネrkッの。cienst ロも材地表の進物素状ット化 に発 ロも材球面の 展質 トント ワ学 こうりの しんかい しんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう ひんしょう ひんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひんしょう しんしょう しんしょ しんしょ	望一 ク健 進 ネノ新 子 al e c e al e o に ち e o に ち e o に も の た の に の の の の の の の の の の の の の	How to わの情報 のすう クラお・ マクポ・ マクポ・ マクポ や マクポ ・ マクポ マク ス の 見 た マク ス の 見 た マク ス の 見 お・ マク ス の 見 お・ マク ス の 見 の の 月 の の 見 の の 月 の の 日 の の の の の の の の の の の の の の	o use eler 科学 、	nents and Computat グ Cluste 学 Chemi very, dev () Orga Vanoscal velopmen l global e J理解 S analysis ces and n etals	I their future tional and manual ring over ge- istry of react velopment ar unic light-em e materials v at of new fun environment Spectroscopi	applic athem ne net ive ox nd role itting vith in ctiona c anal hesis	cation atical analy works ygen speci- e of organic diodes novative fu l oxide ma ysis of mol	es in relation
[履修要件] 特になし										
	小七子,甘游 。							i ya ana ina kata sa ina		
-	の方法・基準] 参加の姿勢と出席	牙状況、	レポ	ートの	評価に基	づき総合	合的に判定	する。		

環境生物・物質化学(2)へ続く↓↓↓

			1		I		I		
配当学年	修士	単位数 2	開講期	月 前期	曜時限	水4	授美	能形態 講	義
科目番号	4009	使用言語	E	英語/Engli	sh				
していくた し、実施し を構成して A natural di nanagemen preparednes	夏度ではあるが大 設には、リスク ていくことが重 いくことを可能 saster is a low-fre t plan, which con ss. In this class, ec ppropriate counte	の「抑止」 運である。 さとするよう equent and high sists of varion conomic appro-	、「軽 本講で な経済 gh-impa us coun paches	減」、「 は、災害 学的方法 act risk eve termeasure for underst	移転」、 を理解し に関して nt. It is v s, e.g., pr anding fe	「保有」と 、それに対 講述する。 ery importan revention, me catures of na	:いう対策 するリン nt to make itigation,	策を総合 スクマネ e an integ transfer a	的に計画 ジメン rated ris und
_	と内容] roduction and Exj ne Global Trends			Outline					
	Integrated Disast		-	t					
第7-8回: R	isk Perception Bia	as and Import	ance of	Land-use	Regulatio	ons and Risk	Commu	nication	
	Cost-Benefit Anal	ysis of Preve	ntions a	and Mitigat	ions				
<i></i> 第9-10回: (•							
	Disaster Risk Fir	ancing							
第11-12回:		-	nable D	evelopmer					
第11-12回:	Disaster Risk Fir saster Managemer	-	nable D	evelopmer					

		ステイナビリティ学最前線 ntier of Sustainability Science					者氏名	地球環境学堂 准	教授森	晶寿
配当学年	修士	単位数	2	開講	明前期	用集中	曜時阪	集中講義	授業形態	講義
科目番号	4011	使用	了言言	6	Engli	sh	un die en fan inden de seine ander de seine de s			
「高峰の音										

[授業の概要・目的]

This class is designed for graduate students to learn a variety of research frontier of Sustainability Science. Sustainability Science is a new academic field that was lately created to find out ways to attain sustainable development and sustainable society. By understanding a variety of academic fields related to sustainability and interactions among them, students are expected to get recognition, beliefs and instruments, not to mention to technological solution and practical knowledge that help to advance sustainable development.

This class aims to provide an integrated and inter-disciplinary approach to sustainability science. Lectures consist from a variety of academic field, including philosophy, politics, economics, energy, architecture, meteorology and marine science and so on. In this sense, this class welcomes students from a variety of research area. Students are encouraged to share ideas, knowledge and deep understanding on ways to advance sustainable development through group discussions and presentation that followed by the lectures.

[授業計画と内容]

Lectures are given by professors of five universities: Hokkaido University, Ibaragi University, University of Tokyo, Osaka University and Kyoto University intensively for three days of July 14-16. All the lectures and group works are given in English. Detailed description is as follows. Students are expected to raise questions to the lecturers.

Lecture 1: Introduction

Lecture 2-6: Conceptual and ethical viewpoints: Environment and development in Africa, Consensus building, Environmental conservation and Ainu people

Lecture 7-11: Science and technological viewpoints: Advanced energy development, Urban tree-planting, Climate change adaptation, Sustainable fishery management,

Lecture 12-14 Group works and presentation

Lecture 15 Summary

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

Group presentation in the class and a post-lecture report.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Komiyama et al 『Sustainability Science: A Multidisciplinary Approach』 (UNU Press)

•

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

水惑星地球(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

An examination will be given at the conclusion of the course; students will also be asked to submit a "final report". Grades given in these two components will determine the grade assigned to each student.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書) 授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

随時. 事前にe-mailでアポを取ること. メールアドレスはyamashiki.yosuke@flood.dpri.kyoto-u.ac.jp

環境リーダー論A(2)

した防災と環境管理の連携について学ぶ。

第3回(4/26) 途上国衛生管理(田中宏明)

2008年洞爺湖G8サミットで日本国首相が提案した、水と衛生、廃棄物に関するMDGsの達成と 地球温暖化対策を兼ねるコベネフイトの方法を途上国衛生管理に適用する基本的理念と具体例につ いて紹介し、議論する。

第4回(5/10) エネルギーと環境(手塚)

国際的観点から、エネルギー問題及びエネルギー利用と深く関連する地域環境問題、地球環境問 題の現状、問題点、将来のあり方について述べる。

第5回(5/17) 地域環境問題への視点と関わり(藤井)

アジア・アフリカ・日本の事例を参照しながら、国内外の農山漁村など地域コミュニティが直面す る環境や地域支援に関わる諸問題とそれへの対処のあり方を紹介する。

第6回(5/24) 環境リスク評価とリスクコミュニケーション(高野裕久)

環境中には、多くの有害化学物質のような環境リスクが存在する。特に発がん性化学物質につい て健康リスク評価とリスク管理について概説する。また正しい情報を市民と共有するためのリスク コミュニケーションの重要性について学ぶ。

第7・8回(5/31・6/7)発表・討論(全員)

第1回~6回の内容を参考に学生による発表とその質疑・討論を行う。

.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

Positive participation, attendance, presentatations and submission of reports are evaluated. Each student is required to make an English presentation related to the lecture contens involving his/her investigation and discussions.

受講態度における積極性と発表レポートにより総合評価する.特に発表レポートについては,講義 を受けた後に自ら関連する内容についての知見を深めたものであることを要件とする.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

- Disaster Management: Global Challenges, Local Solutions: Rajib Shaw and R.R. Krishnamurthy, University Press, 2009

その他は、授業時に述べる

The other books will be announced at the class.

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

Notice during lecture hours

新環境工学特論 | (2)

生物処理技術(マラヤ大学Shaliza教授)

No. 8 (June 4) Wastewater Treatment Plants Case Study in China - Biological Nutrient Removal (BNR) (Prof. Wen, Tsinghua University) 中国の排水処理現況:生物学的窒素除去(BNR)(清華大学文湘華 教授)

No. 9 (June 11) History of Water Pollution in Malaysia (Prof. Ghufran, University of Malaya) マレーシアに おける水質汚染の歴史(マラヤ大学Halim教授)

No. 10 (June 25) Student Presentations /Discussions I (all) 学生課題発表1(全員)

No. 11 (July 2) Student Presentations /Discussions II (all) 学生課題発表2(全員)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

Evaluate by class attendance, Q&A and presentation. 授業参加、発表および討議で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

A lecture with 120 minutes is conducted 11 times.

Either of this course or New Environmental Engineering I, advanced" can be dealt as "Asian Environmental Engineering", which is a subject needed for completion of the EML course.

PowerPoint slides are main teaching materials in the lectures, and their hard copies are distributed to the students. In addition, a list of technical terms and difficult English words is given to the students with their explanation and Japanese translation.

1回120分の授業を11回開催する。

本科目か新環境工学特論 I のいずれかは、EMLコース修了に必要な「アジア環境工学論」に読み 替えることができる。

講義は、パワーポイント中心の説明で実施され、授業では、その印刷物が学生全員に配布される。 また、専門用語や難解英語の説明・和訳対照表も配布する。

新環境工学特論丨丨(2)

第5回(11/5)大気汚染、その歴史的展望、アジアの国から(3):日本(倉田) Air Pollution, Its Historical Perspective from Asian Countries (III), Japan (Kurata)

第6回(11/12)学生課題発表I(全員) Student Presentations /Discussions I (all)

第7回(11/19)マレーシアの廃棄物管理の概要(マラヤ大学Agamuthu教授) Overview of Waster Management in Malaysia (Prof. Agamuthu, University of Malaya)

第8回(11/26)廃棄物管理事例研究:日本(高岡) Solid Waste Management, Case Study in Japan(Takaoka)

第9回(12/3)廃棄物管理事例研究:中国(清華大学W Wang教授) Solid Waste Management, Case Study in China (Prof. Wang, Tsinghua University)

第10回(12/10)廃棄物管理事例研究:マレーシア(マラヤ大学Agamuthu教授) Solid Waste Management, Case Study in Malaysia (Prof. Agamuthu, University of Malaya)

第11回(12/17)学生課題発表II(全員) Student Presentations /Discussions II (all)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

Evaluate by class attendance, Q&A and presentation. 授業参加、発表および討議で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書) 授業中に紹介する

「新環境工学特論 | 「(3)へ続く ↓ ↓↓

8	リスクコミュニ Risk Communicat		A pair estated we shall be		2 准教授 ショウ ラジブ - 特定准教授 竹内 裕希子
配当学年	修士	単位数 1 開	講期 前期後半 昭	時限 火3	授業形態 講義
科目番号	4511	使用言語	In English and	Japanese (日本	語、英語)
[授業の概]	要・目的]				
ョン成立の	ための防災教育 ー・教材・フィ	育に関して、リン	スク情報の種類や	ゥリスクコミュニ	とリスクコミュニケーシ -ケーションに関わるステ 参加型演習を交えた実践
2. リスクコ		レンと防災教育の	ュニケーションの D関係を理解する D実例を知る		3
examples of	risk information,	, disaster education		ol field experience	management, with specific e and etc. The course will
2. To under	stand linkage of i	risk communicati	unication in the d ion and disaster ec on risk communic	ucation	-
[授業計画]	と内容]				
 1)問題点 2)リスク 3)実践演 第1回:リ 	「の3つの柱から 「および課題の根 「コミュニケーシ 「習(第7・8回目 スクコミュニケー 災教育に関する」	既説(第1・2回日 /ヨンと防災教す 目)。 ーションに関す	育の具体的な事例	削研究(第3・4・	5。6回目)
第3回:リ 第4回:リ 第5回:リ 第6回:リ 第7回:リ	スクコミュニケ スクコミュニケ・ スクコミュニケ・	ーションと防災 ーションと防災 ーションと防災 ーション支援ツ ーションの実践		例 II 例	
i) overview ii) concrete iii) learning Lecture 1: (Lecture 2: (Lecture 3: I	exercise (Lecture Overview of risk of Overview of disas Linkages of risk of	communication a e 7, 8) communication, i ter education, iss ommunication ar	, 2) and disaster educa issues and challenge ues and challenge id disaster educati ind disaster educati	ges s on: Examples of J	apan I
8					.ニケーションと防災教育(2)へ続く↓↓↓

	災害復興に関す Environmental is			recovery	担当	者氏名	地球環境学堂 地球環境学堂 地球環境学堂 地球環境学堂	武 徹 滋穂 ウ ラジブ		
配当学年	修士	単位数	2 開	満期 通	」 j年	曜時降	良その他	1	能影	
科目番号	4513	使用]言語	Engl	ish					
[授業の概要・目的]										
	is aimed at learni sters and related r									
[授業計画	と内容]									
Lectures 2 & and their em) Lecture 4: If Lectures 5 & 有効利用) Lectures 7 & 興のグラン Lectures 9 & Katsumi (放	Basic issues of geo & 3: Damage to en hergent measures, mmediate treatme & 6: Geotechnical & 8: Overall desig ドデザイン、ニ & 10: Managemen (射性物質による -15: Exercises at	nvironme by Kats ent of dis utilization gn and co コミュニ nt agains ら地盤環:	ent and w umi and aster deb on of dis mmunit ティーレ geoenv 寛汚染)	vater su Fujii (首 oris, by aster de y-based ンベルの ironmer	oply ar a然災 ⁴ bris, b activit D取組) ntal con	d sewe 書によ 冬害廃 y Inui a y for d htamina	erage systems る環境問題・ 棄物の応急対 and Katsumi (約 isaster recover ation with acci	caused by 上下水道 応) 災害廃棄 [!] y, by Kats dental nuc	natura 道被害 物の却 sumi a clide, 1	と緊急対応 也盤工学的 nd Shaw (復 by Inui and
[履修要件]										
特になし										
[成績評価	の方法・基準]									
Evaluated b	y the participation	n into the	e class di	scussio	n and t	he fina	l report.			
[教科書]							·		•	
Materials w	ill be provided in	the class								
[参考書等]	•							÷		
(参考書) 授業中に紹										

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

Lectures will be conducted either mid or end of August. Lectures 1-10 will be given in 5 days and Lectures 11-15 will be given in succeeding 3 or 4 days including the transportation. Detailed schedule will be announced once it is fixed. Due to the capacity, students attending "International Course on Approaches for Disaster Resilience" have priority.

開講時期は8月中下旬を予定している。5日間でLectures 1-10を、3~4日間でLecture 11-15を実施する。 履修希望者が多い場合は、International Course on Approaches for Disaster Resilience参加学生を優先す る場合がある。

環境マネジメントセミナー(2)

(b)Field study :

Stay at a facility located at Tango Peninsula for 5-7 days during the summer break, and learn the basics of ecosystems and landscapes as well as field investigation methods. Field study is scheduled to take place from 30th July – 4th August. (Details to be announced later.)

(d)Experiments and practical studies:

In this module, students attend two 2-day courses of laboratory work or practical study related to environmental and/or technological research in study fields outside those to which they belong. These activities will take 4 days in total, and are expected to take place during the summer break. (Details on the study schedules and contents offered in this module will be announced later.)

(c)Literature review and its presentation:

In this module, students read-up upon literature relevant to their field and prepare a short report (up to three A4 pages) reviewing what they have read. Students are required to make a presentation and defence on a designated day (tentatively, scheduled on 30 th July). Humanities students are requested to read the previous literatures related to their field of study. Students in the sciences are requested to read and review a number of journal papers. (Students should consult with their supervisor and the faculty member in charge of this course in order to determine the details (themes and quantities of literatures) of their literature review.)

NOTE: Students should choose from among optional modules (b), (c), (d) in accordance with their preference, their individual study needs, and the contents of each module. Students should indicate their choice of optional study module on the "Seminar in Environmental Management Questionnaire" provided for this purpose. The form should be submitted to the academic affairs section of the administration office of Graduate School of Global Environmental Studies by 27th April 2010.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

受講態度における積極性,出席,終了後のレポート(各回ごと)により総合評価する.特にレポー トについては,講義を受けた後に自ら関連する内容についての知見を深めたものであることを要件 とする.

Active participation, attendance, and submission of reports are evaluated. The students are required to include on the reports the results of their own investigation on the discussed topics.

[教科書]

なし。

None

[参考書等]

(**参考書**) 授業時に述べる。

̄環境マネジメントセミナー(3)へ続く→ ↓↓